

Atruko Kudo Mail Magazine | 85

2012.05.30

●被災地コンサートツアー「良き力に守られて」



お元気でいらっしゃいますか？
日本、東南アジアでの奉仕を終え、
24日、無事にドイツに帰ってま
いりました。

抜けるような青空と目にしみる
緑、ロードデンドロン、鳥たちの
美しい歌声に囲まれて、久しぶり
の安堵感を味わっています。

日本での最後の奉仕であった、岩
手県の被災地でのコンサート、私
にとって、非常に貴重な時であっ
たことを、日を追うごとに感じて

います。同行してくれた AKWM 事務局の同労スタッフ、近藤宏子さんがさっそくレポートをまとめてくださいました。今回は長いメルマガになりますが、皆さんにも被災地とそこで働くスタッフのために祈っていただきたく、写真を添えてご紹介させていただきます。

●被災地コンサートツアーに同行して (記：近藤宏子)

2012年5月17日～20日 岩手県の盛岡聖書バプテスト教会(近藤愛哉牧師)を拠点として大船渡、宮古、岩泉地区を回るコンサートツアーに同行する機会を与えられた。以下はその同行記録である。その前にいわて教会ネットワークについて簡単にご紹介しておきたい。

◆「3.11 いわて教会ネットワーク」

<http://311.ichurch.jp/> 以下、「3.11 いわて」は、2011年3月11日に三陸沖を震源に発生した東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)によって被災した諸教会とその地域の支援を目指す教会のネットワークである。

このネットワークの発起人であり責任者の一人が、今回のツアーでお世話になった盛岡聖書バプテスト教会の近藤愛哉(よしや)牧師である。同教会はネットワークの拠点となっている。

このネットワークは、5人の牧師・信徒によるコアメンバーと15人の現地協カスタッフから成る。そして「3.11 いわて」と共に奉仕しているのが、OMF、ホクミン、United Project、Crash Japan、Commission To Every Nation である。



1. 第1日目 5月17日(木) 岩手到着

1時ごろ花巻空港到着。共に参加する方は、ピアニストの野田常喜さん、主に在る真実な同労者の中川庸子さん。篤子さんはすでに先発している。

OMF バリンジャー先生（写真中央）が出迎えて下さる。彼は盛岡聖書バプテスト教会の協力宣教師。

3時教会到着。教会の1F集会室の和室が私たちの宿泊させていただくところ。押入れにはボランティアが宿泊するためか、お布団、シーツ類がぎっしり収納されている。

オリーブ館（同教会の別館、写真は一階のガレージ。震災以降与えられた場所、ボランティアの宿泊や倉庫、車庫として用いられている）で、ビデオを見る。田老地区の、高さ10メートルの防潮堤を超えて津波が襲ってくる。国道を走っている車が津波に吞まれて行く。またある映像では教会の聖書や賛美歌が水で膨張してしまって本棚に張り付いていた。



近藤愛哉牧師のコメント：

岩手の沿岸被災地に住む方々は初めて福音に触れる人が多い。ある仮設住宅に行った時、どのように話してよいのか悩んだ。キリスト教は要らんと言う方々に、震災を利用して布教するつもりはないと話して、ひたすらお仕えしていくという姿勢で今まで活動してきた。

～ふたつのエピソードが紹介された。～

ある日、被災した家屋（旅館）を片付けたところ、感激したご主人が、その旅館をボランティアの拠点・宿泊場所として使うことを許して下さいました。

また大槌町の建物の1Fが津波でスカスカになった場所で炊き出ししていたところ、ある高齢の方が、「まるでノアの箱舟みたい」と言われたので驚いて聞いてみたら、60数年前、一人の宣教師がこの地に来ていたことを知る。先人の祈りが積み重なっていたところに今回自分たちが入って来たことが分かった。

震災から1年余りたった今、前向きになった人もいれば、そうでない人もいる。親子関係が悪くなって悩んでいる人もいる（アルコールに走る、虐待するようになったなど）。一戸一戸地道に訪ねる活動を続けている。



2. 第2日目 5月18日(金) 盛岡から大船渡へ



午前6時ごろ起床。デボーション。

ロマ書16章12～13節。

主にあって労している、ツルパナとツルポサによろしく。
主にあって非常に労苦した愛するペルシスによろしく。
主にあって選ばれた人ルポスによろしく。また彼と私との母によろしく。

「〇〇によろしく」で始まるこの節について、デボーション・ガイドには次のように書かれてあった。

「パウロの人的ネットワークに属するひとりひとりにドラマがあり、神の導きの御手があります。このことは、私たちに関しても言えます。主にある兄弟姉妹たちひとりひとりが、主に愛された器であることを覚え、互いに尊敬し、愛し合おうではありませんか。」

私たちは、今まさに、「神の導きの御手による人的ネットワーク」に支えられて、この賛美コンサートツアーを始めようとしていることを覚え、このツアーにふさわしい聖句を与えられたことを感謝したい。このために祈りとご支援をしてくださる方々に感謝したい。

途中、遠野市（柳田國男の遠野物語のもとになった町で有名）、釜石市、陸前高田市を通り、午後1時ごろ大船渡のカメリアホールに到着。

長期現地スタッフのふたりの青年、小林さん、永田さんが迎えてくださる（写真、中央の2人）。お二人とも私の子どもよりも若い年齢だけれど、この働きに召された証が鮮やかでしっかりした素晴らしい青年たち。

～以下はおふたりの証し。～

イースターの礼拝メッセージに心動かされ祈り、母教会の祈りと支援に送りだされてこの地に来た。この地での働きを通して、自分の思い上がり、自分がどういう者であるか知らされた。毎日毎日が神さまの恵み。これほど素晴らしいものを神さまが準備してくださっているとは思いませんでした。

日本からだけでなく、海外から来てくださった多くの素晴らしい方々に会うことができ、自分の信仰面、人間性などを考えさせられる大きな機会になった。

大船渡の被災地で車を留めていただく。ガレキはかなり片付いているが、埃っぽく、のどがいがらっぽくなる。津波に襲われて1Fがスカスカになっている建物が多い。菓子本舗「かもめのたまご」の建物もしかり。





午後4時からカメリアホールでコンサート打ち合わせ。この時、United Project 代表の Paula Chen 宣教師(略してポー先生。若くてチャーミング)、大船渡スタッフのマイカ・ジェントさんに紹介される。ポー先生はコンサートの司会もして下さる。(写真)

4時半から工藤さん、野田さんは練習開始。ハープのキャサリンさん(Crash Japanのスタッフ。たまたま釜石に来ていたところ、急遽出演していただく運びとなった)が加わる。熱のこもった練習が続く。

中川さんも私も練習中ずっと祈る。他のスタッフは会場設営、音響、スクリーン設定。



6時半、開場。

7時開演。

8時半ごろ終演。

外は雨。

入場者は50人ぐらい。

スタッフを合わせると70人弱ぐらい?

スタッフの方たちはバランスのとれた働きで、熱心に仕事をされるのに感動を覚えた。

コンサートは、皆さん、熱心に聴いてくださった。篤子さんも熱を込めてトークと賛美。トークは後で彼女が語ったところによると、「いつもはフル原稿だけれど、今回はどうしてもそれができなかった。白紙で臨んで、神様に導きを祈りつつ、平安をいただいて話した」とのこと。

篤子さんの気持ちが良く分かった。皆さんにも伝わった。プログラムが終わった時、会衆の中から「ありがとう、ありがとう!」という声が上がった。

コンサートの最後、篤子さんは5月の誕生日の方に、CDとHappy Birthdayの歌をプレゼントした。

何人もの方が涙ぐみながら、篤子さんの手をしっかりと握って帰られた。



コンサートで感じたこと、2つ：

1) 被災者の皆さんと同じ場所に立つ

このコンサートに二つ返事で同行することを決めて、祈り始めたが、長い間どう祈って良いか分からなかった。一体どういう気持ちで私は被災地に行くのか。被災者の方々を励ますために？私はどうやったら励ますことができるのか？と考えると、思いあがりと自己満足以外の何ものも見出し得なかったのである。

ただひとつ私が神さまに毎日願い求めたのは、「私は篤子さんのサポートをするために同行するのだから、神さま、どうか、証しと賛美をする工藤さんと同じ思いにしてください」ということであった。

そしてカメリアホールでのコンサートが始まった。コンサートの中で篤子さんは、「このコンサートで私が願ったことは、被災者のみなさんと同じところに立たせていただきたい、ただそれだけでした」と言われた。

私はその時、ハッとして、祈り求めてきた答えを与えられたと思った。「被災者のみなさんと同じ場所に立つ。これが答え。神さま、ありがとう！」と感謝した。主イエスは神の身分を捨てて、罪人の私たちと同じ場所に立つため、地上に降ってくださった。だから私も主に倣おう。神さま、感謝です！工藤さんと同じ思いにしてくださいと祈り求めた私に神さまは答えてくださったのである。



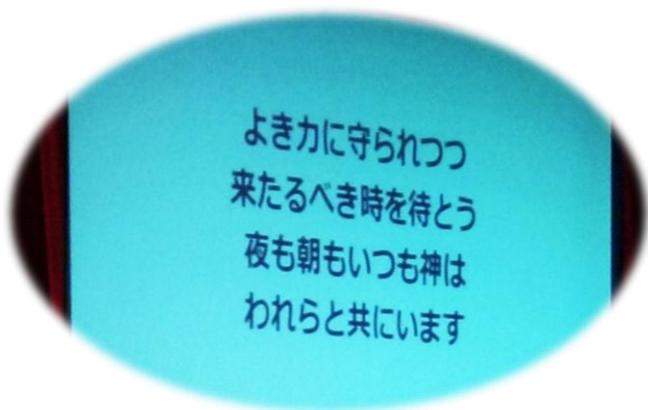
2) 「良き力に守られて」

コンサートで篤子さんはボンヘッファーの生き方について話した。私はそれを聞きながら、「ボンヘッファーについて、ここに来場して下さる方が果たして興味を持って聞いてくださるだろうか？分かるだろうか？誰でも知っているクリスチャンの有名人を例に挙げたほうが良いのではないだろうか？」と不安になったのである。

しかしそんな心配は全く必要なかった。いや私の

心配は肉的でさえあったと言えよう。ボンヘッファーの作詞した「良き力にも守られて」を篤子さんが歌い、「どのようなことがあっても、皆さんと私たちは良き力に守られていることを覚えてください」と何度も心を込めて語った。

そしてコンサートが終わった時、会衆の中から「ありがとう、ありがとう！」という声が上がった。篤子さんの気持ちが通じたのだ！と思って、私も胸が熱くなった。主は生きておられる！ハレルヤ！



3. 第3日5月19日(土) 大船渡から宮古へ。2回のコンサート。

午前8時に多くの現地スタッフの方と共に3時間かけて宮古へ。途中大槌町を通る。ほとんど壊滅状態。町長さんと数十人の職員は避難が間に合わず、庁舎の1、2階を襲った津波に呑み込まれて、そのまま消息が途絶えた町である。途中立ち寄ったコンビニも食堂もすべて仮設。

① グリーンピア三陸みやこ体育館コンサート

ここで松井さん(ホクミン 北海道クリスチャン宣教ネットワーク)や、盛岡聖書バプテスト教会、盛岡みなみ教会から駆け付けてくださった教会員、青年達、青森の教会から来てくださった中原さん、鳥取から来た現地スタッフの大塩さんと合流。彼らが一生懸命働く様子に感動。いろいろの教会やグループから遣わされた人々が心を一つにして働いていた。まさに多くの肢体があるが、ひとつのからだである。

準備をしながらマイカさんから話を聞くと、30の仮設住宅があるが、これまで行くことが出来たのは5、6箇所ぐらい。今は大工仕事ができるボランティアが必要とのこと。仮設住宅の押入れの棚を作ってほしい、家のひさしを延ばしてほしいなどの切実な要請が多い。

公共事業のほうに行く大工さんが多く、なかなか大工さんのボランティアが無いとのことである。

松井さんが作ってくださったおにぎり、卵焼きなどをお昼にいただく。どれも美味しいものばかり。

1時半よりコンサート。篤子さんはここでも「良きかに守られて」を心を込めて歌った。一番前の席に、先日この地区でキリストの救いに導かれたご婦人が座っておられた。



コンサート後、すぐに岩泉地区に向かう。途中、田老地区を通る。高さ10メートルの防潮堤を超えてきた津波に呑まれてほぼ壊滅状態。



② 岩泉（小本仮設住宅集会所）でのミニコンサート。午後4時から。

ここも特に漁業施設や港湾施設も壊滅的な被害を受けたところである。20世帯の小本仮設住宅の小さな集会所でコンサートを開く。約20の椅子はほぼ埋まる。Commission To Every Nation から遣わされたバークナー宣教師が責任者（写真中央、ピンクのブラウスの女性）。彼女はここに来るまでは香川県で奉仕。宣教師になる前は科学者だった。

ミニコンサートが終わるとティータイム。大変な経験をしたばかりの方々とお茶を飲みながら、最初は何を話してよいか分からず戸惑いを覚えた。しかし、被災者の方々と同じ場所に立つという思いで語り合うことができたと思う。



※コンサート終了後の祈り。感謝に溢れて仕えるスタッフたちは、今日も輝いていた。

4. 第4日目 5月20日（日）盛岡聖書バプテスト教会礼拝

礼拝前、マイカさん、フレッドさんらと共に朝食をいただく。フレッドさんはアメリカでの仕事をやめて、夫婦で被災地でのボランティアをするために来られた。

礼拝にて篤子さんは「神の恵み」を、野田さんの素晴らしい伴奏とともに心を込めて主に捧げた。その後「良きかに守られて」を一同で賛美。

3つのコンサート、礼拝での賛美奉仕。このたびの賛美ツアーのテーマは「良きかに守られて」と言っても良いだろう。

礼拝後昼食。その時被災地に遣わされていたスタッフが被災地の様子を報告。毎週礼拝後にこの報告会をしているとのこと。



大船渡は遠いので、ベースキャンプのための土地が与えられるように祈りのアピールが出される。（→その後、一階部分が浸水被害を受けている家が紹介され、5月29日に契約へと至った報告をいただきました！）。

毎週末、スタッフが教会に帰ってミーティングをする。「3.11 いわて教会ネットワーク」が良く機能している秘訣は、スタッフミーティングと日曜日礼拝後の皆さんへの報告によって祈りと奉仕のバランスが取れているからなのだろう。スタッフのみなさんの、リーダーの方々の、信仰と健康を祝福してくださいと心から祈りたい。

（以上、AKWM スタッフ近藤さんのレポートより）

●お祈りください。

♪「3.11 いわて教会ネットワーク」のために。

「支援する側、支援される側」の関係ではなく「共に歩んで行く」関係へと進んでいます。私たちも、弛まな
い祈りと息の長い支援をもって、共に歩ませていただきたいと思います。

♪6月の「カリフォルニア・コンサートツアー」のために。

これまでの活動の疲れが完全に癒され、霊肉ともに十分整えられた状態で、サンフランシスコ、ロスアンジェ
ルスでのひとつひとつの奉仕に臨むことができますように。祈りと共にたくさんの準備を積んでくださってい
る、各主催教会、現地スタッフの皆さんの祝福のために。現地の多くの未信者の方がコンサートに来てくださ
いますように。主がその方々の心に語り、救いへと導いてくださいますように！予定は以下の通りです。

6月12日(火) ハンブルクーサンフランシスコ

16日(土) サンフランシスコ、キリスト合同長老教会 14:00~

1700 Sutter Street, San Francisco, CA 94115 Tel. 415-567-3988

17日(日) サンロレンゾ・キリスト教会 14:00~

615 Lewelling Blvd. San Leandro, CA 94579 Tel. 510-483-9470

19日(火) マリーナ第一バプテスト教会 14:00~

234 Carmel Avenue, Marina, CA 93933 Tel. 831-384-0307

21日(木) San Fernando Valley Holiness Church(北米ホーリネス教団) 19:00~

9610 Haddon Ave. Pacoima Ca 91333 Tel.818-899-4115

22日(金) Orange Coast Church (フリーメソジスト教団)

3198 B Airportloop drive. Costa Mesa Ca 92626 Tel.714-641-1944

23日(土) アナハイムフリーメソジスト(同上) 16:00

1001 N Mayflower St. Anaheim Ca92801 Tel.714-827-0782

24日(日) LA ゴスペルベンチャーインターナショナル教会 14:30~

17811 S Western Ave. Gardena, Ca 90248 Tel.310-274-9444

25日(月) LA 出発

26日(火) ハンブルク着

皆様の上に主の溢れる祝福が共にありますように！

Atsuko Kudo

